



G 昔は「女部屋」と呼ばれた修道院。いまもシスターたちが祈りとともに暮らしている。



I カトリック共同墓地には黒島御石で作られた墓石が並んでいる。



CHECK!!

Aコウの木

佐世保市では宇久島と黒島だけに育つ亜熱帯の樹木。クワ科イチジク属。黒島は暖流の影響で、本土より2度ほど平均気温が高いと言われているが、そのためかアコウの木がよく成長する。古くから家の防風樹となっている。髪のような枝根を垂らしている。その他に、樹齢250年の大サザンカも根谷にある。



F 島の南側は断崖絶壁が続いている。



C

にがり成分として海水を入れる島豆腐づくりを体験した。



ふらりと島の散策を楽しむ。

老人に出会った。

島の中心にある「黒島天主堂」は明治35年にフランス宣教師マルマン神父の指導の下、信者によって建てられた。

レンガも手作りだ。天主堂で史跡ガイドの山内さんからキリスト教の歴史についてお話を伺った。小高い丘の上のキリスト教共同墓地には特産の黒島御影石の墓石が並ぶ。島では今も土葬が許されている。時間が止まったような不思議な感覚を覚える空間だ。

島には二軒の民宿があつて、新鮮な海の幸や、鉄分の多い赤土で育った美味しい野菜を、ふんだんに使った料理を出してくれる。宿で一休みした後、それぞれ

に島の散策を楽しんだ。

対馬暖流の影響で暖かく、暖地性のアコウが茂るなど、島内にはのびやかな自然が広がる。常緑照葉樹が濃い緑の葉を茂らせ、島全体が黒っぽく見えることから「黒島」となったとも言われる。

その他に根谷の大サザンカは推定樹齢250年も育っている。その実から採られる油がかつて島民の生活の一部を支えたのだろう。毎年10月の終わり頃に純白の花を咲かせる。

早晨6時、朝焼けの空に教会の鐘の音が響いた。黒島へは相浦港から1日3便のフェリーが出ている。島にはバスもタクシーもない。島時間でゆっくり歩いて巡ってみてはどうだろう。

ウォーキングメモ

H 串ノ浜岩脈

黒島が大昔、火山活動によって出来たことを証明するように、恐竜の背びれのように三本の岩脈が、西端の串ノ浜に走っている。岩盤の割れ目からマグマが浸透して、冷えて固まって出来たものだ。長崎県指定の天然記念物である。



ウォーキングメモ



B 明治35年にマルマン神父によって建てられた黒島天主堂。赤煉瓦は信徒が焼いたという。



高島の先端に浸食で出来た穴があった。



A 名切浜に上陸する。黒島の南側にある小さな船着場だ。浜にシーカヤックを引き上げる



いざ、鹿子前から出発。九十九島の海は穏やかだ。



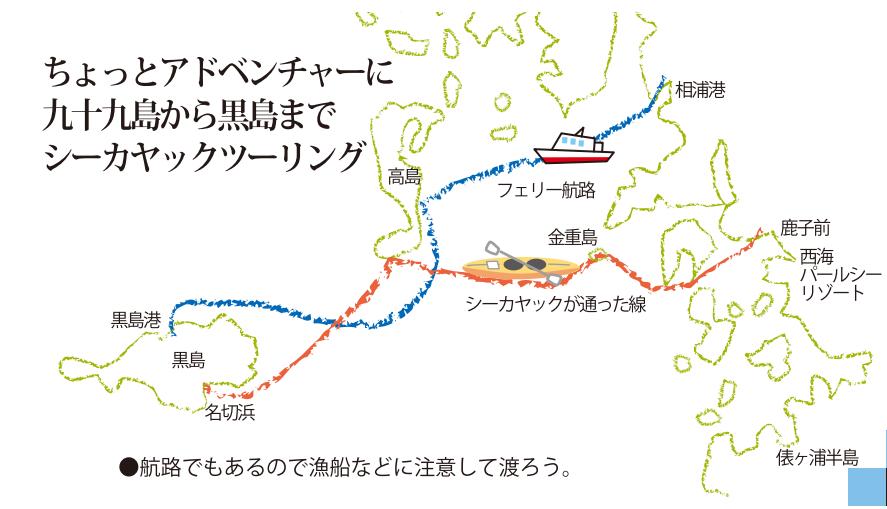
金重島の砂浜に上陸。外海に面する側は険しい岩場だ。



黒島の西端にある、小さな白亜の灯台。



わずかに波がたってきた。遠くに黒島が見える。



ちょっとアドベンチャーに
九十九島から黒島まで
シーカヤックツーリング

●航路でもあるので漁船などに注意して渡ろう。

キリストンの島「黒島」にシーカヤックで行く